

金沢大学バイオマス・グリーンイノベーションセンター

理念：人の好奇心を形に、地球に自然の色彩を

バイオマス・グリーンイノベーションセンター（BGIC／ビージック）は、社会課題の解決と循環型社会の実現を目指して設立された共創研究施設です。共創研究は、志を共にする複数の大学や企業がオープンに参画し、業種や専門の壁を越えた自由な交流と、それぞれの特色を活かした異分野融合による価値共創を目指しています。BGICは、豊富な森林資源を持つ日本ならではのバイオマス研究の最先端の拠点として、グローバルな人材育成とバイオマスバリューチェーンの実現を加速します。

建物概要

階数：地上7階建て

延床面積：約7,7000㎡

規模：設置費用はダイセルから30億円の資金提供。民間資金を活用した産学連携での整備施設では国立大学で最大（2021年7月時点）

建物の特長：

外観は、隣接する既存建物のデザインを継承し、金沢城の石垣や金沢大学の前身校の一つである旧制第四高等学校校舎のレンガをモチーフとして、金属製のパンチングメタルを配してモザイクグリッドをデザインとした、伝統の継承と先進性を感じさせるデザインとなっています。

また、地球にやさしい先端的サステナブルの構築や、自然との調和を図るため、ペアガラス、LED照明、高効率機器、トップランナー変圧器等の設備を配置しており、低炭素社会の実現を目指します。

建物内は、異分野融合による交流・研究を促進し、新しい価値の創出と、その社会の実装を迅速に進めるため、ニーズに合わせたフレキシブルな研究環境となっています。さらには、フロア構成およびゾーニングによる段階的なセキュリティや、セキュリティゲート（電気錠）を設置することにより、入居者・利用者の実験研究成果を保護しています。

Webサイト <https://bgic.kanazawa-u.ac.jp/>

これまでの歩み

2018年7月：金沢大学と総合化学品メーカー株式会社ダイセル（以下ダイセル）は包括連携協定を締結し、セルロース（植物由来の繊維）の研究を開始。同年「次世代セルロース科学連携講座」を、2019年「先導科学共同研究講座」を設置。

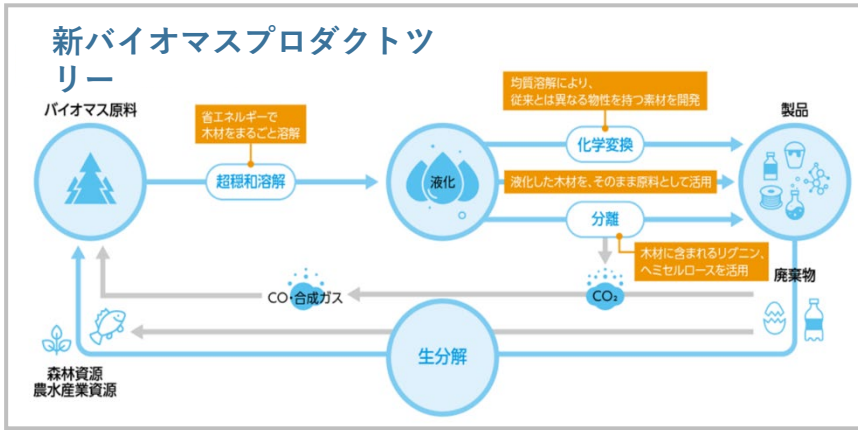
2020年12月8日：金沢大学とダイセルは文部科学記者会にて「新産学共同研究所（仮称）」整備に関する覚書締結式を挙。2021年

7月6日：金沢大学とダイセルが産学連携研究拠点施設の安全祈願祭を挙。同年同月着工。2022年10月1日竣工。

株式会社ダイセル（以下ダイセル）は、人々に幸せを提供する価値ある製品を、ヒトや地球にやさしい方法で生産する技術を開発・発展させることで、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

その中で、ダイセルが長年扱ってきたセルロースをはじめとする脱石油につながる天然由来資源の有効活用を通して、新バイオマスプロダクトツリーの社会実装、バイオマスバリューチェーンの実現を目指しています。

ダイセルはこの実現に向けて、サプライチェーンを垂直方向・水平方向にかけあわせ多様な連携を行う“クロスバリューチェーン”を推進しています。

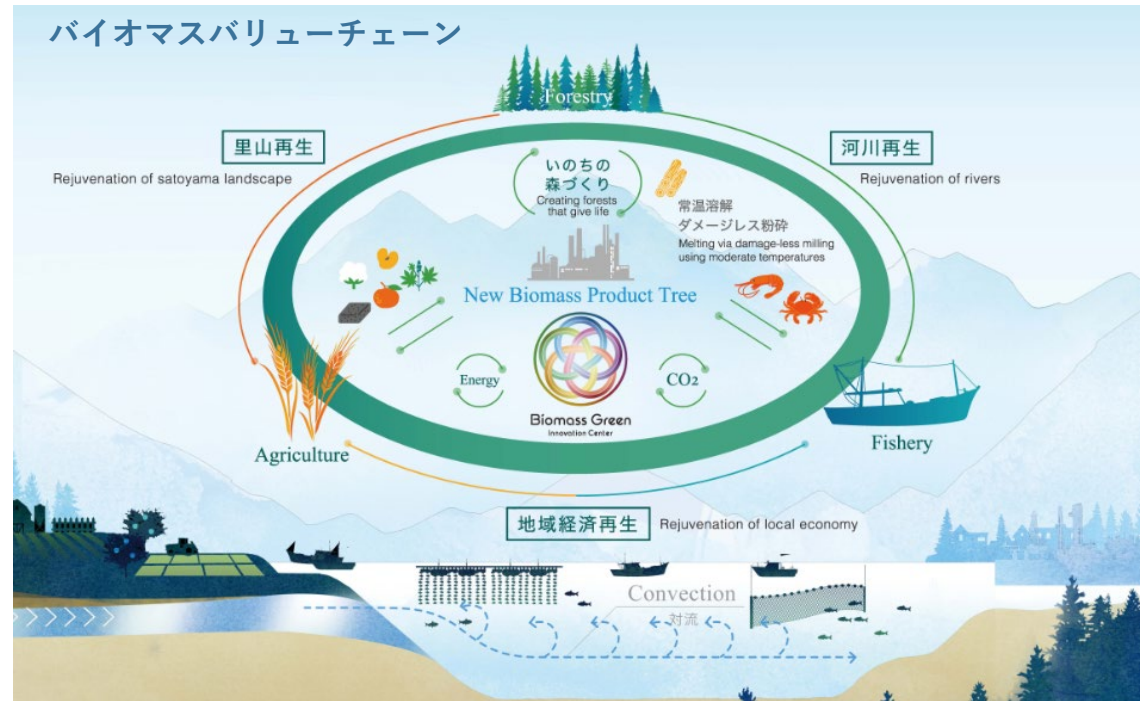


▲新バイオマスプロダクトツリーとは・・・

バイオマスの新しい変換プロセスのことで、木材などの天然資源を再生可能な資源として活用するとともに、これまでにない新たな機能性材料群を開発します。

▶バイオマスバリューチェーンとは・・・

新バイオマスプロダクトツリーの構築により得た技術を展開し、化学産業だけでなく、幅広く一次産業・二次産業も連関し、地域社会と一体となった改革を行うことで、生態系の利活用から排出物の循環まで、地域社会全体がバリューチェーンとして再生するという概念です。



BGICは、本取り組みを实践する重要なオープンイノベーション拠点になります。金沢大学とダイセルのみならず、異分野融合、異業種連携、産産学学官官連携など産学官、業界の壁を越えた共創を推進します。